

# 令和5年度 事業計画

## 1. 基本方針

未だに終息の兆しを見せない新型コロナウイルス感染症ですが、政府は今年5月8日からその位置づけを2類相当から季節性インフルエンザと同じ5類相当へ移行し、「With コロナ（新型コロナウイルスとの共存）」へと大きく舵を切りました。

これに伴い、本センターを取り巻く地域社会においても「With コロナ」に向けた新しい生活様式に対応した地域づくりと、これに呼応する経済の活性化が大いに期待される所です。

一方、昨年から顕著となった物価高騰に加え、本年10月から導入されるインボイス制度(適格請求書等保存方式)に伴い、センターでは従来までのセンター運営を見直さなければならない状況になっています。

現在、稚内市では少子高齢化が著しく進展しており、全人口の3人に1人が65歳以上という状況の中、本センターは高齢者が生き生きと元気に働く事が出来る場として、また地域活性化や地域の担い手の補完的役割として期待されている所です。

このような状況から、本センターの円滑な運営のため、更なる財政基盤の強化を図る事とし、今年度から計画的に特定費用準備資金の積立てを実施する事に致しました。

また、センターの安定的な運営の確保には財政基盤の強化のほか、「会員の拡大」と「就業機会の確保・拡大」を図る事が重要です。

近年、稚内市では人口減少が進み、また一方では市内の企業において定年年齢の引き上げが進んでいること等が影響し、本センターの会員数は伸び悩み、慢性的な人手不足が続いています。また、これと相まって会員の高齢化が進んでいることから、これまで以上に安全に配慮した事業運営に努めていくことが必要となっています。

このため、令和5年度においては、これまでと同様に「自主・自立、共働・共助」の理念を踏まえた適正な公益法人の運営に努めることはもとより、特に「会員の拡大」に力を注ぎつつ、「就業機会の確保・拡大」、「安全・適正就業の推進」、「運営基盤の安定・強化」を引き続き事業の柱とし、センターの健全運営を図り、これまで以上に地域から信頼されるセンターを目指して、会員及び役職員が一丸となって事業に取り組んでいきます。

## 2. 事業目標

- ・会員数 185名
- ・粗入会率 1.4%
- ・契約金額 92,330千円
- ・事故発生件数 0件

## 3. 具体的な事業実施計画

### (1) 会員の拡大及び就業機会の確保・拡大

- ・「就業開拓委員会」において論議を進め取りまとめた「令和5年度就業開拓推進計画」に基づき、会員の拡大及び就業機会の確保・拡大を進めます。
- ・会員の育成、技能向上等を図るための研修・講習を開催するほか、技術の伝達及び伝承のための方策を検討します。
- ・「一人一会員入会活動」を推進すると共に、特に女性会員の拡大に向けた対策を進めます。

- ・ センターに対する理解の促進やシルバー事業の周知を図るための活動の継続・拡充を図ると共に、各種団体等との連携強化を図ります。
- ・ 派遣事業による就業機会の確保・拡充を図ると共に、派遣先の開拓拡大にも取り組みます。

## (2) 安全・適正就業の推進

- ・ 安全就業の推進、就業・帰宅途中の事故防止等に関し、令和3年度に策定した「安全就業基本計画」及び「作業別安全基準」に基づき、安全意識の喚起を図り、事故発生防止に取り組みます。
- ・ 全ての会員が安全に関する意識を共有し、行動できるよう様々な取組みを進めると共に、事故発生時には、速やかに情報の周知を図るほか、事故発生防止の為の注意喚起を行います。
- ・ 適正な就業形態の確保のため契約内容や就業状況の把握に努め、精査・確認を行うと共に、ワークシェアリングの観点から長期就業の是正に努めます。
- ・ 健康維持のための講習会の開催や情報提供、市などが実施する特定健康診断や予防接種の勧奨、会員状況調査票による健康チェックなどにより、可能な限り元気で働き続けられるよう取組みを進めます。

## (3) 運営基盤の安定・強化

- ・ 財政基盤の強化のため、特定費用準備資金の計画的な積立てを実施すると共に、予算の執行にあたっては常に経費の削減に努め、適切な予算管理、財務運営を心掛けます。
- ・ 適切な会員負担の在り方を含め、会費の見直しについては定時総会へ提案すると共に、特別会員並びに賛助会員制度に関しての整理・検討も行います。
- ・ 「自主・自立、共働・共助」の基本理念の実現のため、会員の運営参画を進め、地区班、職群班の拡充及び連携強化を図ると共に、各専門委員会の活性化や専門部会の強化を図ります。
- ・ 会員及び発注者の利便性に配慮した効率的、効果的な事務局運営に努めると共に、職員個々の能力向上にも努めます。

## (4) 関係機関・各種団体との連携強化

- ・ 稚内市や北海道、ハローワークとの連携を引き続き図ると共に、就業や会員の拡大に繋げるため、地域団体や経済団体、女性団体、老人クラブ等との連携も進めます。
- ・ 全シ協及び道シ連とは、各種事業の実施や情報収集を進めるほか、センターだけでは対応が難しい課題等の解決のためには、必要な意見反映を行うと共に、他のシルバー人材センターとも情報の共有・交換を始め、必要な連携を図ります。

## (5) 会員参加と計画的な事業運営

- ・ 会員の事業への参加を進めるため、積極的に情報提供を行うと共に、地区班・職群班等からの意見や要望は、専門委員会や専門部会等で検討・協議し、事業推進に必要な反映を行います。
- ・ 第3次中期計画の適切な推進管理に心掛けると共に、中期計画検証委員会における検証・評価を考慮した事業運営を引き続き進めます。